

第5回 天然アユ生態調査実行委員会議事要旨

1. 会議概要

○日 時：平成29年11月17日（金）13:30～15:30

○場 所：豊田市職員会館2階 第1会議室

○出席者（規約の名簿順）

（アドバイザー）高橋 勇夫（たかはし河川生物調査事務所 所長）

（アドバイザー）村上 哲生（中部大学 教授）

（アドバイザー）内田 臣一（愛知工業大学 教授）

（アドバイザー）赤堀 良介（愛知工業大学 准教授）

（委員長）加藤 重雄（矢作川漁業協同組合 代表理事組合長）

（委員）新見 克也（矢作川天然アユ調査会 会長）

（委員）中村 公要（愛知県 豊田加茂建設事務所 河川整備課長）

（委員）中川 啓二（豊田市矢作川研究所 所長）

（事務局）豊田市矢作川研究所

○議 事

- 1) アーマーコート化の解消によるアユの生息環境の再生実験（資料1）
- 2) 次年度の計画について
- 3) アユの産卵状況調査について
- 4) その他

2. 議事録要旨

（1）アーマーコート化の解消によるアユの生息環境の再生実験

■事務局説明

事務局が資料1をもとに今年度の遡上状況を報告した。

■主な意見等

コケ植物と付着藻類とを分けてサンプリングできないか。

⇒事務局：必要性は感じているが、コケ植物の混入割合に応じて対処するのが困難で悩んでいる。

対照区のコケ植物のない石からサンプリングしてはどうか。

⇒事務局：できると思うので検討したい。

(他のアドバイザーからも同様の見解が出される)

礫置き区で既に5月から砂があったのは本当か。

⇒事務局：サンプリングはせず目視だけの方法であるが確認した。

河床の粒径の観測方法を検討する必要がある。既存の方法に準じてはどうか。アユの生息環境に照らし合わせたサイズ区分とし、アユの生態データと重ねて考察できるといい。

⇒事務局：観測方法について検討します。

一番大きいサイズの礫は除去して、残りをサンプリングして粒度分析する手がある。作業性との兼ね合いも検討してはどうか。実験区の河床を動かしてしまう問題はあるが。

⇒事務局：粒度分析の方法についても検討します。

アユが確認できる距離が1.5~2mぐらいでは、かなりの数のアユが逃げていると思われる。3mは見通せないとアユの数を過小評価してしまっていると思う。カメラを設置して定点観測するなど一つの方法だ。

透視度2m以下だとなわばりの観察は困難だ。なわばりアユにも人の存在をあまり気にしない個体と気にする個体があり、後者はおそらく観測できていない。

なわばりアユかどうかの判定には、友釣りの感触などを参考にする手も検討するとよい。ただし一定レベル以上の技術がないと分からない。

⇒事務局：参考にしつつ、次期の計画を立案します。

クロロフィルの量が矢作川で低い原因として、アユが食べる影響以外に考えられることはないか

⇒事務局：河川の貧栄養化の影響があるかもしれない

水温の最大値が夜中となることでアユに影響があるかもしれない。日較差が2℃ぐらいの幅でも。

(2) 次年度の計画について

■事務局説明

事務局が計画を説明した。

(3) 矢作川産天然アユの産卵環境改善

■事務局説明

事務局が計画と調査の状況を報告した。

(4) その他

次回：2月23日（金）13時30分～16時で決定。

以 上